

SYOHEI ニュース 令和6年8月号

病院等経営強化プラン・その4

前沢診療所

1 役割の明確化

- 前沢診療所は、地域住民の心身両面からの外来診療を行うとともに、生活習慣病予防や認知症対策の普及啓発を行います。



2 機能及び体制

- 市民の医療と健康管理を担うため、前沢地域を主とした奥州市における全人的医療の実践と予防医療の啓発に努めます。
- 総合病院との連携を強化しながらかかりつけ医としての機能を充実させます。
- 予防医学的見地から健康寿命を延ばす効果が期待されるフレイル・サルコペニア予防事業の推進を図ります。
- 当診療所の専門医療機能を活かし、民間医療機関との積極的な患者紹介等による相互連携を図ります。
- 地域における定期的な健康イベントや研修会を通じて市民への啓発や医療機関との連携を深めます。

3 病床

- 病床については休床中の病床について無床化への検討を進めます。

病床種別	現状	見直し後
一般病床	19床（休床）	0床
計	19床	0床

医療機能や医療の質、連携強化等に係る数値目標

指目標	単位	R4年度実績	R5年度計画	R6年度計画	R7年度計画	R8年度計画	R9年度計画
医師数	人	1	1	1	1	1	1
入院患者数	人	—	—	—	—	—	—
外来患者数	人	7,435	7,700	7,816	7,933	8,052	8,172
平均在院日数	日	—	—	—	—	—	—
紹介率	%	30.0	30.3	30.6	30.8	31.1	31.4
救急車搬送数	人	—	—	—	—	—	—
救急患者受入数	人	—	—	—	—	—	—
訪問診療件数	件	—	—	—	—	—	—
訪問看護件数	件	—	—	—	—	—	—

※救急患者受入数は救急搬送者数を含まないものとする。

「一緒に啓発活動しませんか！」

前沢診療所 所長 鈴木 順

みなさんがもし地方の病院・診療所に着任したら、どんなことをしたいですか？ 8年前に大学を退職して前沢へ赴任した私は、地域医療の発展には医療・保健・福祉に関する地域住民への啓発活動が重要だと考えました。

それにはまず住民とのふれあいが大切と思い、地元開催の行事になるべく参加しました。挨拶だけでは物足りず、敬老会ではオカリナを、収穫祭ではエレクトーンを演奏して会場を沸かせました。

また、臨床実習中の医学生らと共に認知症支援イベントで畑の芋掘りをしたり、収穫祭の寸劇と一緒に出演したりと親睦を深めていきました。地区センターや自治公民館にも足を運び、各地で健康講話を約30回してきました。そこでは住民が本音で話しをしてくれました。

さらに、診療所併設の保健センターで講演と演奏を組み合わせた前沢さわやか健康セミナーを主催し生活習慣病などをテーマに3年間で7回開催。最大約180名の市民が来場しました。

コロナ禍で3年間活動休止後、令和4年末には振興会主催で自治体・行政・診療所が協働して規模を拡大し文化会館に奥州市長をお迎えして奥州まえさわ健康フェスタ2022を開催。本格的な講演会と演奏会、健康チェックや地元の医療施設紹介コーナーなどを設け、約450名の市民が参加し成功裏に終わりました。

健康フェスタ2023は全ての地区センターと民間医療機関も共催してパワーアップ開催！

9月7日（土）に開催する健康フェスタ2024に、あなたも一緒に参加してみませんか？

大谷翔平選手の成績ボード（R6.7.24 現在）

試合99 打率314② 本塁打30① 打点73② 盗塁24④
 6.7.11 ESPN「ベストMLB選手賞」4年連続で受賞
 6.7.14 大リーグ通算本塁打200号到達
 6.7.17 オールスターゲーム4年連続出場で3点本塁打記録
 6.7.22 日本人初の4年連続30号本塁打を達成

『SYOHEI ニュース』は市医師養成事業関係者の情報紙です。
 令和6年7月25日発行 奥州市医療局医師確保推進室
 〒023-0053 奥州市水沢大手町3-1 TEL0197-25-3833
 市医療局HPにバックナンバーを掲載しています。 第52号

マエサワクジラ・ミスホクジラ

奥州市前沢生母

奥州遺産No.4 広報おうしゅう 平成 23 年 1 月号

はるか昔、前沢にはクジラがいた。今からおよそ **500 万年前**、奥州市には海が広がっていたのである。その海は、仙台湾から北上市まで入り江が伸びたもので、魚やクジラが海を泳ぎ、空には海鳥が翼を広げていた。

その時代から長い年月を経た昭和 56 年。前田正元さんが東稲山ろくで、のり面から転げ落ちていたクジラの化石を発見する。全身に近い骨格で発見されたこのクジラは全長 5 ㍎ほど。新種の可能性があったためマエサワクジラと名付けられ、世界的な標本として注目を集めた。昭和 29 年にこの近くから発掘されたミスホクジラと共に、解明されていなかったクジラの進化を探るうえで重大な鍵を握っている。

現在、海から遠く離れたこの地で、クジラの化石が出る。この不思議な出来事は、わたしたちに太古への浪漫や夢をかき立てていく。



牛の博物館に展示されているミスホクジラ（上）とマエサワクジラ（下）の骨格復元模型

とびがもりそう ろとう 鷹ヶ森層 露頭

奥州市前沢生母

奥州遺産No.92 平成 30 年 5 月号

「富士の根山」の林道を歩くと、所々に赤茶けた岩石が崩れている場所がある。鷹ヶ森層の露頭である。足元の石を一つ拾ってみると、貝のような生き物の化石が見つかるかもしれない。それは、今からおよそ **4 億年前**、赤道に近い南の海に生息していたシルトスピリファの一種だ。貝の仲間（軟体動物）ではなく、腕足動物に分類されており、ここで見られる種

類は古生代デボン紀を代表する示準化石とされている。

はるか遠くの南の海の生き物の化石が、なぜ奥州市で見付かるのだろうか。地球の表面はプレートと呼ばれるいくつかの大きな板に分かれて動いている。鷹ヶ森層は、長い時間をかけて移動してきた堆積物が日本海溝に沈み込む際、陸側のプレートに張り付いたもので、付加体と呼ばれている。

山中で見つかる海の生き物の化石が、日本列島の成り立ちを物語る。



■鷹ヶ森層は、古生代の海に積もった堆積物が石となった堆積岩からできており、決まった方向に割れやすい性質を持っている。■2枚の殻を持つシルトスピリファの化石。九州の有明海には同じ仲間のミドリシャヤミセンガイが生息し、生きた化石と呼ばれている